

令和7年度第2回碧南市民病院運営審議会 議事録

1 開催日時

令和8年2月2日（月） 午後1時30分から午後2時53分まで

2 開催場所

碧南市民病院2階 多目的研修室

3 出席者（委員） 13名（順不同）

長田和久委員（会長）、杉浦龍一委員（副会長）、片伯部裕樹委員、長田和徳委員、原田孝司委員、鳥居靖彦委員、山中寛紀委員、角谷瞬委員、石川徹委員、三島博委員、中村志保委員、神谷悟志委員、對馬幸司委員

4 欠席者（委員） 4名

近藤浩晃委員、榆孝子委員、内藤大輔委員、鈴木玲子委員

5 出席者（病院側） 13名（事務局担当者は含めず）

小池市長、杉浦病院長、金澤副院長、鳥居看護部長、永坂経営管理部長、野村医事経営課長、松井管理課長、水野医事経営課課長補佐、鈴木医事経営課課長補佐、河合医事担当係長（代理）、藤浦総務係長、遠藤施設用度係長、山田訪問看護ステーション副看護師長

6 傍聴者

5名

7 内容

(1) 会議の成立等について

永坂部長から開会の宣言があり、本日の出席者数は13名で、全委員の過半数であるため、本日の会議は成立した旨の報告があった。併せて、テレビ放送取材の申し出があり、会長から撮影の許可が得られたため、協力をお願いしたい旨の連絡があった。

(2) 傍聴者等について

会議の傍聴について、永坂部長から本日の傍聴者は5名である旨の報告があった。

(3) 市長挨拶（要旨）

- ・本日は、市議会3月定例会に提出する予定である、令和8年度碧南市病院事業会計予算（案）、令和8年度碧南市訪問看護ステーション及び碧南市居宅介護支援事業所の事業計画（案）及び予算（案）並びに碧南市民病院における緊急経営対策についての審議をお願いする。

- ・令和10年度末時点での財政調整基金残高20億円を目標としており、現在（事業の見直しによって）17億円まで確保できる見込みとなった。（市の財政状況に大きく影響する）碧南市民病院における緊急経営対策について、自身の意見等を自由に発言し活発な議論をお願いする。

(4) 会長挨拶（要旨）

- ・診療行為はその価格が法令等で定められており、民間企業のように自由に価格を設定することができないため、収益を増加させることが難しく病院の経営は大変厳しい状況にある。
- ・碧南市医師会は「市民病院が必要であり、その経営改善にも協力したい。」と考えている。

(5) 病院長挨拶（要旨）

- ・公立病院の経営状況は過去に例を見ないほど厳しいが、公立病院は医療における「最後の砦」である。
- ・西三河南部西医療圏で良質な医療を提供し続けることが当院のミッションであり、いかに市民等の健康を守るか（職員一同）真剣に考えている。
- ・次の診療報酬改定の概要が発表されたが、今後は国の意向に沿って、費用をかけずに上手に病院を運営していくことが一層求められる。
- ・委員の方々には今までと変わらぬ支援をお願いしたい。

(6) 新任委員の紹介

永坂部長から「令和7年度第2回碧南市民病院運営審議会委員名簿」に沿って、1名の新任委員（角谷瞬委員）の紹介があった。

（以後、長田会長による議事進行）

(7) 議題

ア 議題（1）令和8年度碧南市病院事業会計予算（案）について

長田会長

議題（1）令和8年度碧南市病院事業会計予算（案）について、事務局に説明をお願いする。

（野村課長から「令和8年度碧南市病院事業会計予算（案）について」の説明を行った。）

委員①

外来収益が減少している理由を教えてください。

野村課長

「碧南市民病院経営強化プラン」にて設定した金額を基に、最近の外来患者数の減少を踏まえて計上したためである。

委員①

入院収益が増加し、外来収益が減少することに相関関係はあるのか。

野村課長

入院収益及び外来収益は、緊急経営対策の内容を踏まえ、最近の患者数から算出している。外来収益の減少は患者数の減少を考慮したためである。

委員①

入院収益が増加した理由は何か。

野村課長

緊急経営対策による増収分を計上したためである。

委員①

最近は外来患者数が減少しているということか。

野村課長

そうである。

杉浦病院長

原則、当院の外来患者は診療所等から紹介を受けた者であり、当院の外来で症状を診るということはない。国の方針によって症状が安定している患者は診療所等で診ることになっているため、当院の外来患者数は減少傾向にある。しかしながら、診療所等で治療することができない患者も一定数存在するため、そのような場合に診療所等から紹介を受け当院の外来を受診してもらうかたちになる。

委員②

緊急経営対策を踏まえた上で令和8年度予算（案）を審議する必要があるため、議題（3）を先に審議すべきではないか。

（議題（3）を先に説明し、その後で議題（1）を採決することとなった。野村課長及び松井課長から「碧南市民病院における緊急経営対策について」の説明を行った。）

委員①

夜間救急体制について、日当直医を2名体制から1名体制に変更することは実現可能なのか。

松井課長

夜間救急体制の見直しは、日当直医を現在の上級医2名（外科系1名・内科系1名）及び研修医1名の体制から上級医1名及び研修医1名の体制に変更するというものである。令和8年4月の開始を予定しており、現在実現できるように内部で調整しているところである。

委員①

この見直しによって（医療現場で）不具合が生じる可能性又は過去に不具合が生じたことはないか。

松井課長

現在までこの体制を実施したことはないが、一般的な懸念点としては、内科医が当直のときに外科系疾病の患者が来院した場合又は外科医が当直のときに内科系疾病の患者が来院した場合に、専門の医師が不在であることが挙げられる。この点は院内でバックアップ体制を検討中である。名古屋市を除く、二次救急の県内公立病院（10病院）では3病院がこの体制を採用している。（上級医）2名体制を維持することが困難であり、体制の変更は苦渋の決断である。患者等に可能な限り迷惑が掛からないように検討していきたいと考えている。

委員③

一部の診療科を縮小することについて、医療難民が発生しないように近隣地域の病院及び診療所とは調整できているのか。

杉浦病院長

（一部の診療科の縮小は）関連する近隣の病院、大学等と（当院の）あるべき方向を検討し決定した経緯がある。一部の患者には近隣の病院だけではなく、場合によっては大学病院や県立病院に通院してもらうことになる可能性がある。

委員③

移動するための手段がない患者が困らないよう、診療科を縮小しても最低限の機能は維持し、公立病院としてのセーフティネットの役割を果たしてほしい。

委員④

令和8年度予算（案）において（今年度当初予算に比べ）資本的支出が大幅に減

少しているが、診療に支障が生じないか。また、今年度に支出が増加し財政状況が悪化した理由を教えてください。そして、不採算診療科の診療を停止することで、来年度の支出が減少するという認識か。

野村課長

今年度に電子カルテを更新したこと（当初予算額15億5千6百万円）及び工事の施工や医療機器の購入を費用抑制の観点から控えることによって、令和8年度予算（案）では今年度当初予算に比べ資本的支出を抑制している。

松井課長

単純に、赤字が大きいため不採算診療科の診療を停止したわけではない。不採算診療科の診療を停止しても劇的に病院の経営が改善されることはない。昨今の賃上げによって医業収益に対する給与費の比率は75パーセントを超えており、この部分を対策しないといけない。年度内に12回の開催を予定している市民病院緊急経営対策会議は未だ4回残っており、この中で給与費の課題について検討を進める。配布資料において緊急経営対策として示した事項だけでは病院の経営を改善することはできず、他にも着手できることを一つ一つ実行していかないといけない。（説明した）不採算診療科の診療の停止は、直ちに取り組まないといけない事項の一つである。

委員④

サービスの低下は良くないが、不採算診療科において過剰なサービスを削減し、経費を抑制することは良いと考える。

委員②

病院の経営を改善することについて、市民病院を今後どのような病院にしていきたいのか。新設する総合診療科は市民病院の特徴となり、採算の取れる診療科となり得るのか。

杉浦病院長

当院ができた当初は一つの病院で全て完結することが求められ、患者の需要に合わせた病院の経営を行うため、多くの職員を雇用することとなった。しかしながら、時代が進み、高齢の患者が増加し、小児科においては薬やワクチンの進歩によってより専門的な治療を必要とする患者が増加してきた。入院患者の様相も変わり、年齢の中央値は60代から70代や80代となった。このような状況で当院は超急性

医療ではなく、地域の急性期医療や高齢者向けの医療に特化した病院を目指すこととした。在宅医療や短期的な入院を必要とする高齢者を中心とした幅広い診療を可能とするため、総合診療科を新設することを決定した。また、以前は「患者を早く家庭（地域）に帰したい。」という考えから在院日数を短く設定していたが、（高齢の患者が増加したことから）その基準を落としてでも完治するまで退院を待って、退院の質を向上させる方針に転換することとした。今後は地域の住民が気楽に利用できる地域密着型の病院を目指していく。そのような病院でないと市民病院である意味がないと考えている。

委員②

ぜひ今後もそのような考えで病院を運営してほしい。

委員①

県内公立病院ではあま市民病院が唯一指定管理者制度を導入していると新聞記事で見たが、指定管理者制度についてどのように考えているか。

野村課長

指定管理者制度（の導入）については現在考えていない。

委員①

今年度の一般会計からの繰入見込みを教えてください。

野村課長

今年度は（9月補正で）14億円を追加で繰り入れ、その総額は30億円になった。今年度の赤字は19億円、年度末の現金残高は13億円を見込んでいる。

委員⑤

市民病院に関する負のイメージは広がりやすい。市民、市、関係機関等が前向きに力を合わせて課題に取り組んでいくことをお願いしたい。

（議題（1）を採決したところ、挙手多数のため、承認された。）

イ 議題（2）令和8年度碧南市訪問看護ステーション及び碧南市居宅介護支援事業所の事業計画（案）及び予算（案）について

長田会長

議題（2）令和8年度碧南市訪問看護ステーション及び碧南市居宅介護支援事業所の事業計画（案）及び予算（案）について、事務局に説明をお願いする。

（野村課長から「令和8年度碧南市訪問看護ステーション及び碧南市居宅介護支

援事業所の事業計画（案）及び予算（案）について」の説明を行った。）

※質問、意見等なし

（議題（２）を採決したところ、挙手多数のため、承認された。）

(9) その他

※特になし

（以後、永坂部長による議事進行）

8 来年度の開催予定等について

(1) 来年度の開催予定

永坂部長から令和８年度の本運営審議会は、令和８年７月６日及び令和９年２月１日に開催予定である旨の連絡があった。

(2) 令和６年度病院年報

永坂部長から今年度から病院年報を電子化し、配布した案内から各自閲覧してほしい旨の連絡があった。

9 閉会

永坂部長から本運営審議会の閉会が宣言された。